

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 博愛福祉会	代表者	理事長 大西弘文	法人・ 事業所 の特徴	利用者・家族の要望に柔軟に対応するとともに、残存機能の維持 向上・自立支援に努め、在宅生活が継続できるよう取り組んでい ます。
事業所名	小規模多機能型居宅介護 ゆとり庵魚住	管理者	管理者 大塚由記		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	3人	人	人	1人	人	1人	人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の 確認	<ul style="list-style-type: none"> ・職員の制度理解への説明を丁寧に行う。 ・当事者意識もって取り組めるよう啓発活動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度は非常勤職員にも広く意見を求め、ほぼすべての職員から回答があった。 ・前年よりは勤続年数が長くなった職員が多く、制度理解を求める機会が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所自己評価に対して、ほぼすべての職員が取り組んだことは分かった。 ・事業所自己評価自体について、初めての参加者に伝わりづらかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の参加者に対してサービス評価の内容、手順を丁寧に説明する。
B. 事業所の しつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事やイベントに可能な限り参加して事業所を知ってもらい、開かれた事業所として認知していただくよう努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・対面での運営推進会の開催となり、事業所の中の様子を知っていただく機会ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の機会だけでは、わからないという意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス評価の実施前に運営推進会議の参加者に説明する機会を持つ。
C. 事業所と地域の かかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあるが、どのようなかかわり方が可能か模索していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・まちなかゾーン会議への参加や地域のお祭りへの協賛、参加等を行った。 ・運営推進会議の場での説明、アピールが不十分で、参加者に伝わらなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の機会だけでは、わからないという意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・参加した地域活動について、運営推進会議の際に詳細な報告を行う。必要に応じて、写真や動画を閲覧していただく機会を作る。
D. 地域に向いて 本人の暮らしを 支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの利用者様に地域との結びつきを強めるサービス提供に努める。 ・地域の社会資源を把握し活用方法について検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の社会資源の把握に努め、一部は活用しているが、十分とは言えない。 ・利用者様と地域との結びつきについては、「維持」には努めたが「強化」には至らなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様を事業所の中だけに閉じ込めていないのはわかった。 ・運営推進会議の中で触れる機会がなくわからないという意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で利用者様を支える取り組みを強化し、その内容を運営推進会議で報告する。
E. 運営推進会議を 活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で気になる方との関りを、運営推進会議で報告する。 ・運営推進会議で頂いた意見を改善に繋げた事例を報告する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様以外で地域で気になるという方がおらず、報告に至らなかった。 ・参加者から提案があり、事業所のBCPについて、運営推進会議で議題とすることはできた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の内容については特に意見はなかった。 ・2ヶ月に1回の開催は多すぎるとの意見があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で気になる方があれば運営推進会議で事例検討を行う。対象になる方については、地域包括支援センターとも相談していく。
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・職員のBCPの理解を深めるよう研修を実施する。 ・定期的な訓練とシミュレーションを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員に対してBCPの研修会やシミュレーションを実施できた。 ・BCPについて運営推進会議で説明する機会が持てた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・BCPの策定や研修会、シミュレーションについて知る機会になった。 ・地域での防災活動にも参加してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域での防災活動に事業所として参加する。地域の中で事業所が果たすべき役割について検討を行う。

事業所自己評価・ミーティング様式	実施日	令和 6年 1月 28日 (13:30 ~ 15:00)
1. 初期支援 (はじめのかかわり)	メンバー	井上・松田・大田・米原・佐藤・大塚

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	3人	5人	3人	2人	13人

前回の改善計画	利用者本人との信頼関係の構築は、正職員が中心となり、家族との信頼関係は管理者・ケアマネジャーが中心となって職員全体で関わりを持ち、状態を把握して本当に必要な支援を行っていく必要がある。
前回の改善計画に対する取組み結果	ご家族様とも積極的にコミュニケーションをとろうとする職員が増えた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	1人	11人	1人		13人
② サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	4人	9人			13人
③ 本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いで声掛けや気遣いができていますか?	6人	7人			13人
④ 本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	2人	10人	1人		13人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
新規の利用者様については事前面談の結果をフェースシートに落とし込んでいるほか、他の事業所から提供を受けた情報についても初回利用日までに共有している。 座席の配慮や不安感を軽減できる声掛けを心掛けている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
緊急的に利用開始になる利用者様については、情報が少なく職員間の情報共有も十分でないことがある。 利用者様やご家族様の必要とする支援が職員間で十分に把握できないまま利用開始となることがある。 柔軟なサービス提供を行う反面、支援内容の変更情報共有が追いつかないことがある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
全体ミーティングを開催して新規利用者の情報共有を図ることは難しく、事前面談等で得た情報を共有することが基本となる。事前に得た情報については、介護システムや申し送りノート、昼礼を活用し、全ての職員が把握できるよう努める。また、利用が始まってから得た情報についても同様に職員間で情報共有していく。 利用者様の不安を軽減できるような対応方法については、試行錯誤を重ねていく。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 6年 1月 28日 (13:30 ~ 15:00)

2. 「～したい」の実現
(自己実現の尊重)

メンバー 井上・松田・大田・米原・佐藤・大塚

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	1人	8人	3人	1人	13人

前回の改善計画	利用者それぞれのプラン内容を職員全体で共有し、目標達成を目指した統一した支援を継続して行うために、業務改善を行う必要がある。 情報を把握しやすくするためにフェイスシート・ケアプランは、更新時には職員に回覧し、各々が確認していく。
前回の改善計画に対する取組み結果	プラン内容の周知、共有が不十分な職員もいるが、以前に比べて少数となった。ご本人の意思を尊重したプラン内容になるように努力した。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 「本人の目標(ゴール)」がわかっていますか?		5人	6人	2人	13人
② 本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?	1人	8人	3人	1人	13人
③ 本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1人	5人	6人	1人	13人
④ 実践した(かかわった)内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?		7人	3人	2人	12人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
ケアプランの作成、更新時に担当者による聞き取りを行い、ご本人の目標を把握し支援内容に盛り込んでいる。定期的にカンファレンスを実施し振り返りを行い、次の対応に活かしている。日々のかかわりの中で、ご本人の希望に応じた支援が行えている。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
ケアプランの作成に関わったり、カンファレンスや担当者会議に参加した職員は内容を理解しているが、それ以外の職員でケアプランの周知が不十分である。ケアプランの作成、更新や事業所内のカンファレンスの仕組みはあるが、この設問自体との関わりが理解できていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
当設問はケアプランの理解と実践に関するものであるが、多くの職員が設問の意図を理解できておらず、利用者様と日々お話をしておられる情報にのみフォーカスした回答が多かった。作成したケアプランを全職員に周知し、「本人の目標」が長期目標であり、「当面の目標」が短期目標であることを職員が理解する。ケアプランの作成担当者は、全職員からの意見を集約しアセスメントを行う。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 6年 1月 28日 (13:30 ~ 15:00)

3. 日常生活の支援

メンバー 井上・松田・大田・米原・佐藤・大塚

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	6人	5人	1人	1人	13人

前回の改善計画

アセスメント結果や生活歴を職員間で把握し、自分のペースでできることは続けていただくよう介助の統一化を図る。

前回の改善計画に対する取組み結果

手順書を活用し介助方法の統一に努めたが、職員によっては情報の把握が不十分な者もいる。ご本人が意思表示しやすい関係性の構築に努め、想いを共有できるようカンファレンスの場などで話し合った。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計 (総人数)
① 本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		5人	5人	3人	13人
② 本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	5人	8人			13人
③ ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?		6人	5人	1人	12人
④ 本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?	5人	8人			13人
⑤ 共有された本人の気持ちや対象の変化に即時的に支援できていますか?		12人	1人		13人

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること

ご本人の状況に合わせた基礎的な介助は行えており、また、ご本人の気持ちや体調の変化に気づいた場合の情報共有や即時的な支援もできているとの意見が多数を占めた。
現在の自宅での生活は理解しているが、「以前の暮らし方」などの個人史は把握が不十分との意見が多かった。

できていない点 200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること

現在の自宅での生活は理解しているが、「以前の暮らし方」などの個人史は把握が不十分との意見が多かった。
ご本人の声にならない声や本当の気持ちの変化を把握し、言語化するまでに至っていない。
日々の関わりの中で、ご本人の気持ちに対する支援ができていないとの意見もあった。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)

「以前の暮らし方」が把握できておらず、アセスメントにおいての情報収集が不十分と言える。優先順位として後回しになっている「以前の暮らし方」についても、個人史として密なアセスメントを行う。
また、アセスメントの結果やケアプランの内容を全職員に周知する。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 6年 1月 28日 (13:30 ~ 15:00)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 井上・松田・大田・米原・佐藤・大塚

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組めましたか?	1人	1人	7人	4人	13人

前回の改善計画
職員によっては、その方の生活を支援するために、現在の生活スタイルだけでなく、過去の生活歴を知ることも重要であることを理解しておらず、情報収集を意識していない職員がいる。ミーティングなどを通して、社会資源の把握に努め共有していく必要がある。
前回の改善計画に対する取組み結果
社会資源の把握に対して積極的に情報収集を行っている職員もいるが、重要性を理解していない職員もいる。把握できた範囲の生活歴についても情報共有が不十分な面がある。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		6人	6人	1人	13人
② 本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないうちに支援していますか?	1人	5人	5人	2人	13人
③ 事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?		5人	8人		13人
④ 本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?		2人	6人	4人	12人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
利用者様との会話の中からこれまでの生活スタイルや人間関係を探るよう心掛けている。 直接接していない時間の過ごし方や生活の中での不安に思うことを聞き出すよう心掛けている。 地域の社会資源についての情報を集めようとはしているが、実際に活用するに至っていない。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
利用者様との会話の中からこれまでの生活スタイルや人間関係でわかったことがあっても、職員間での共有ができていない。 また、直接接しない時間の過ごし方についても同様に職員間での共有が十分ではない。 地域の社会資源についての情報を集めようとはしているが、実際に活用するに至っていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
利用者様やご家族様との会話の中でわかった生活スタイルや人間関係について、介護ソフトやアセスメントシートに落とし込み、職員間で情報共有する。 直接接しない時間の過ごし方や不安に思うことについても、同様の方法で職員間で共有していく。 社会資源に関する情報収集を行い、個別のプランニングに組み込む。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 6年 1月 28日 (13:30 ~ 15:00)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 井上・松田・大田・米原・佐藤・大塚

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	3人	3人	4人	3人	13人

前回の改善計画	
ゆとり庵のサービスだけでなく広く社会資源を活用したサービス内容となるよう、社会資源の把握や活用方法を模索する。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
社会資源の把握は行いつつあるが、活用が不十分でサービスに組み込むまでには至っていない。	

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	1人	6人	4人	2人	13人
② ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が適切に提供されていますか?	5人	7人		1人	13人
③ 日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	5人	7人		1人	13人
④ その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	5人	6人	1人	1人	13人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
地域の社会資源についての情報を集めようとはしているが、実際に活用するに至っていない。その日やその時の状態により柔軟にサービス調整を行っている。状態の変化については、介護ソフトに記録を残し、毎日の昼札や申し送りノートなどで情報共有している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
地域の社会資源についての情報を集めようとはしているが、実際に活用するに至っていない。就労時間が少ない職員は社会資源を活用することやニーズに合わせての支援に考えが及んでいない。状態の変化については各種ツールを用いてはいるが、情報共有が不十分と感じる職員がいる。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
社会資源に関する情報収集を行い、個別のプランニングに組み込む。情報共有については、各種ツールの運用方法の見直しを検討する。全ての職員に対して小規模多機能についての制度理解を促すよう研修の機会を作る。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 6年 1月 28日 (13:30 ~ 15:00)

6. 連携・協働

メンバー 井上・松田・大田・米原・佐藤・大塚

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	2人	1人	7人	3人	13人

前回の改善計画	
外部との連携は主に管理者やケアマネージャーが行っているが、そのほかの職員にも参加の機会を作り、連携の必要性を理解していく。	
前回の改善計画に対する取組み結果	
外部との連携では窓口を一元化するため、それほど多くの職員が役割を担うことはできなかった。	

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① その他のサービス機関(医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所)との会議を行っていますか?		3人	3人	7人	13人
② 自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか?		4人		8人	12人
③ 地域の各種機関・団体(自治会、町内会、婦人会、消防団等)の活動やイベントに参加していますか?	1人	3人	1人	8人	13人
④ 登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか?		2人	3人	7人	12人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
その他のサービス機関との会議については、管理者やケアマネを中心に参加しており連携を図っている。自治体や地域包括支援センターとの会議についても、管理者が窓口になって参加している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
地域住民をはじめとして誰でも訪問できる環境は整えてあるが、目的がないと来訪者はない。各種サービス機関や自治体、地域包括支援センターとの会議には管理者、ケアマネは参加しているが、そのことを他の職員が把握していない。設問に対しては、自分が参加しているかどうかで回答している。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
各種サービス機関や自治体、地域包括支援センターとの会議には今後も継続して管理者、ケアマネが中心となり参加する。参加した内容を職員にフィードバックすることで、事業所が地域の中で果たすべき役割について考えるきっかけとしていきたい。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 6年 1月 28日 (13:30 ~ 15:00)

7. 運営

メンバー 井上・松田・大田・米原・佐藤・大塚

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	4人	5人	1人	3人	13人

前回の改善計画	地域の皆様や利用者様、ご家族様が意見を伝えやすい風土を作る必要がある。意見があったことに対しては懇切丁寧に対応し、今後も意見が出せるような関係性を作っていく。
前回の改善計画に対する取組み結果	利用者様、ご家族様からの意見、要望については、丁寧に対応するよう心掛けた。地域の皆様からの声が届きにくい状況にある。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているか?	2人	4人	6人	1人	13人
② 利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1人	9人	2人	1人	13人
③ 地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	1人	3人	6人	3人	13人
④ 地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取組みを行っていますか?		1人	7人	5人	13人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
職員が意見を言いやすい環境になるよう正職員を中心に組織風土の改善に取り組んでいる。利用者様やご家族様、地域の方からの苦情があれば、報告書により事業所内で共有している。寄せられた苦情に対しては真摯に対応し、再発防止策を都度実施している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
職員によっては意見を言いにくいと感じていたり、自分の意見を言う必要がないと思っているものがある。地域と協働した取組みが全職員が参加する形で実施できておらず、必要とされるされるまでに至っていない。介護保険制度における小規模多機能型居宅介護事業所としての在り方が理解できていない職員がいる。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
全ての職員が自分の意見を言いやすい組織風土になるよう、風通しの良い関係性を作っていく。利用者様やご家族様からの意見や苦情についても、言いやすい関係性を作ると同時に寄せられた声に対しては解決に向けて真摯に対応していく。介護保険制度における小規模多機能型居宅介護事業所としての在り方について学ぶ機会をつくる。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 6年 1月 28日 (13:30 ~ 15:00)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 井上・松田・大田・米原・佐藤・大塚

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組めましたか?	5人	4人	2人	2人	13人

前回の改善計画	希望者に対しては、勤務調整などを行いできる限り研修への参加の機会を確保する。地域連絡会には引き続き管理者、ケアマネジャーが参加するが、連絡会の情報を周知し、職員からも意見を集めて連絡会に対する意識を持たせる。
前回の改善計画に対する取組み結果	一部の職員はスキルアップやキャリアアップの研修に参加できたが、それ以外は研修参加の希望自体が少なかった。地域連絡会での内容を職員に十分に周知できなかった。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 研修(職場内・職場外)を実施・参加していますか	4人	8人	1人		13人
② 資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	2人	5人	5人	1人	13人
③ 地域連絡会に参加していますか		2人	1人	9人	12人
④ リスクマネジメントに取り組んでいますか	2人	5人	2人	4人	13人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
事業所内での各種研修会は実施、参加できている。外部研修についてもできるだけ参加できるよう法人として推奨している。 リスクマネジメントについては、ヒヤリハット報告書や事故報告書を活用している。	

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
資格取得やスキルアップに対して消極的な職員がいる。 ヒヤリハット報告書によって共有すべき事案について報告がない、又は口頭での報告のみとなり事業所内で共有できていないことがある。	

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
ヒヤリハット報告書や事故報告書の対象となる事案については、基本的に第一報の段階で報告書の作成を促す。作成されたヒヤリハット報告書や事故報告書は速やかに職員に口頭で周知の上、書面への確認の署名を取る。職員個々人の資格取得やスキルアップについては、法人内の人事考課制度を活用する。非常勤職員についても、面談の際に目標設定を促し計画性を持たせる。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 令和 6年 1月 28日 (13:30 ~ 15:00)

9. 人権・プライバシー

メンバー 井上・松田・大田・米原・佐藤・大塚

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 前回の課題について取り組みましたか?	4人	8人	人	1人	13人

前回の改善計画
身体拘束、虐待の防止、プライバシー、個人情報の保護についてさらに理解を深めるために、法人内の委員会を基に現場職員への注意啓発を行っていく。日常業務の中で本人を含めた職員の対応で、疑問に感じるものがあれば速やかに管理者とケアマネジャーに相談する体制を整える。
前回の改善計画に対する取組み結果
身体拘束、虐待の防止、プライバシー、個人情報の保護については全ての職員が一定の研修を受けることができた。疑問に感じることは管理者をはじめとする役職者に相談する組織風土の醸成に努めた。

◆今回の自己評価の状況

確認のためのチェック項目	よくできている	なんとかできている	あまりできていない	ほとんどできていない	合計(総人数)
① 身体拘束をしていない	10人	3人			13人
② 虐待は行われていない	11人	2人			13人
③ プライバシーが守られている	5人	8人			13人
④ 必要な方に成年後見制度を活用している	4人	6人		2人	12人
⑤ 適正な個人情報の管理ができている	4人	8人			12人

できている点	200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
	法令で定められる身体拘束排除や高齢者虐待に関する研修を実施しており、該当するような事案は発生していない。プライバシーや個人情報保護についても、整理整頓や個人情報の保管場所を定めて管理している。

できていない点	200字程度で、できていないことと、その理由を記入すること
	職員同士の業務に関する会話が利用者様に聞こえそうな距離感で行われていることがあり、プライバシーの保護が不十分な場面がある。利用者様に対する言葉遣いが乱れていることがあり、敬語での会話が徹底されていない。

次回までの具体的な改善計画	(200字以内)
	プライバシーの保護が十分でないと感じることがあれば、上司に報告することを職員に義務付けて周知徹底する。言葉遣いの乱れや不適切な発言が職員からあった場合、職員同士で注意し合える職場風土にしていく。法令で定められるもの以外の研修にも参加を促し、コンプライアンスに関する意識を高める。